

学苑だより

盛岡大学

第90号

発行日 令和8年3月

発行：盛岡大学後援会

〒020-0694

岩手県滝沢市砂込808

TEL 019-688-5555

FAX 019-688-5577

「対話の先に未来を創る」

盛岡大学後援会会長 岩鼻恵子

近年、社会や生活環境は大きく変化し、私たちはさまざまな課題や出来事に直面してきました。岩手県においても、大船渡での山林火災や県内各地での熊の出没など、日常の安全について考えさせられる出来事がありました。このような状況の中、学生が安心して学び、充実した大学生活を送るためには、周囲の支えや人との関わりが、これまで以上に重要になっていると感じております。

一方で、効率やスピードが重視される社会の中、AIをはじめとするデジタル技術は急速に発展しています。近年では、AIを相談相手として選ぶ人が増えてきたことも、時代の変化を象徴する一つの姿と言えるでしょう。しかし、AIはあくまで便利な道具であり、困難な場面で実際に手を差し伸べ、共に向き合ってくれる存在ではありません。実生活において私たちを支え、助け合う力となるのは、人と人との関係であり、そこに築かれる信頼であると感じています。

とはいえ、同じ時間や空間を共有していても、言葉を交わす機会が少なくなっていると感じる場面も少なくありません。価値観が多様化する現代だからこそ、意識して言葉を交わし、相手を理解しようとする姿勢が大切になっています。大学は、知識や技術を学ぶ場であると同時に、人としての在り方を見つめ、成長していく場でもあります。その中で、盛岡大学の掲げる「対話の先に未来を創る」という理念は、日々の学生生活に深く通じるものであり、学生一人ひとりにとっての確かな指針であると感じております。言葉を重ねることで育まれる信頼は、やがて未来の自分自身を支える力になるものと考えます。

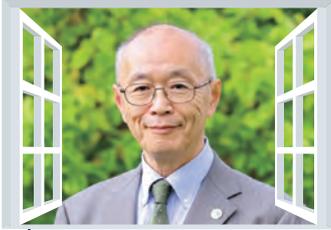
こうした学びと成長を支える一助として、後援会といたしましても、今後とも学生を支援してまいります。最後に、教職員をはじめ、日頃より学生に寄り添い支えてくださっている皆様に、心より感謝申し上げます。

令和7年度後援会役員（三役）の皆様

（カッコ内は学生の所属学科）

会長	岩鼻恵子	（文学部 日本文学科）
副会長	昆梓	（栄養科学部 栄養科学科）
副会長	鈴木恵美	（栄養科学部 栄養科学科）
副会長	東根美聡	（文学部 社会文化学科）
監事	福田恭子	（文学部 日本文学科）
監事	山口恒司	（文学部 日本文学科）

ご協力ありがとうございました。



学長室の窓から

盛岡大学学長 長谷川 公一

令和7年4月から学長に就任いたしました。後援会の皆様の日頃からのご支援・ご協力に深謝申し上げます。

盛岡大学および盛岡大学短期大学の前身、盛岡生活学園は、昭和26年(1951年)に創設されました。本年は創設75年、盛岡大学設立45年、創設者細川泰子先生(1906~1990年)生誕120年の節目の年です。

18歳人口の低下にともなって、本学を取り巻く経営環境には年々厳しいものがありますが、本学の諸活動を一層充実させ、前進していきたいと決意を新たにしております。持続可能な盛岡大学のためには、地域社会との絆・信頼関係を強化することとともに、保護者のみなさまとの絆・信頼関係を強めていくことが不可欠です。大学へのご意見やご注文などがありましたら、遠慮なくお寄せいただきたいと思います。岩手県内外の高校生に選ばれ、在学生の満足度の高い、魅力あるキャンパスづくりのために尽力してまいります。

学長室の窓からは、ことのほか岩手山が美しく見えます。とくに晴れ渡った日は、石川啄木や宮沢賢治が愛したのはこの山容だったのかと、感嘆の声をあげずにはおれません。世界の主な大学を訪れたことがあります。キャンパスから見える霊峰の姿は、世界一であり、断然日本一だと思います。

盛岡は今、世界のモリオカとして注目を集めています。教職員一丸となって、学生たちとともに、盛岡大学を盛り上げ、いっそう力強く盛り立ててまいりたいです。

SPSCC 海外研修参加について

文学部 英語文化学科3年 ^{ふる}古 ^{かわ}川 ^{あゆ}歩 ^せ聖

夏休みの間に、アメリカのワシントン州にて2週間の海外短期英語研修に参加してきました。このプログラムは大阪の羽衣大学と合同で行われ、アメリカの学生、そして大阪の学生と交流することができました。活動中、午前にはSPSCC(サウスピュージェット・サウンド・コミュニティカレッジ)にて英語を学びました。この授業の最後にはグループごとにプレゼンテーションを行い、英語で話すということに対して自信をつけることができた他、学んだことを活かす良い機会となりました。午後のアクティビティでは、マウントレニアでのハイキング、マリナーハーバーでのカヤックやサップ、シアトル観光、野球観戦、ボランティア活動などをアメリカの学生と一緒に体験することができ、忘れられない経験になりました。私が1番印象に残っているのは、ボランティア活動を通して、現地の子供達と交流したことです。折り紙やけん玉など日本の文化を通じて仲良くなり、私自身も楽しかったし、子供達も楽しそうにしてくれたのが私にとって、良い思い出です。

また、今回はホームステイではなくアパートでの共同生活で、身の回りのことは全て自分たちで行わなければならない少し大変でしたが、6人での生活はとても楽しかったです。物価が高いため、料理に使う調味料などは同部屋の子たちと分担して日本から持っていき、食材は現地のスーパーで買ってみんなで協力してご飯を作りました。

2週間という短い期間ではありましたが、自分の成長を感じ、毎日がとても充実していました。



2025年の

盛大さんさ を振り返って

文学部 英語文化学科4年
盛岡大学・盛岡大学短期大学部さんさ踊り実行委員会
委員長 三浦 環

私たち盛岡大学・盛岡大学短期大学部さんさ踊り実行委員会は2025年8月2日に本番を迎え、「最優秀賞」をいただき昨年度に続いて2連覇を達成することができました。

今年は全体目標として「光焰万丈」、テーマの漢字として「煌」を掲げて活動してきました。きらきらと光り輝く炎が「最優秀賞」に向かって高く立ち上るように、力強さ、煌びやかさを「一体となって」魅せることを目指してきました。今年は去年と比べると、参加人数が減少し、盛大さんさの魅力である迫力というものが欠けてしまうのではないかと少し心配していました。

しかし迎えた本番、その心配は不要なものでした。一人一人が毎回の練習に熱心に取り組んできたことで、人数など関係ないほどの一体感をつくることができました。踊りながらメンバーの顔を見渡すと、全員がまぶしいほど煌めく笑顔で楽しそうに演舞をしていて、自分もその笑顔に鼓舞されました。あれほどの笑顔で中央通りを駆け抜けることができたのは、それほどメンバー一人一人が日々の練習で仲間と切磋琢磨しながら困難を乗り越えたことで、自分自身に対する自信、そして仲間を信じる気持ちが備わったからではないかと思っています。そして、その力が最優秀賞という結果にもつながったのだと思います。今年度の経験を活かし、来年度も3連覇を達成できるよう全力で活動していきます。

最後に、2025年の盛大さんさに携わってくださった全ての皆様に深く感謝を申し上げます。今後とも盛岡大学・盛岡大学短期大学部さんさ踊り実行委員会の応援をよろしくお願いいたします。





聖陵祭

文学部 英語文化学科3年
ひら がおん
平 賀 梓 音



今年度は、「星月夜」というテーマで、第44回盛岡大学聖陵祭を開催しました。ゲーム大会やビンゴ大会には、沢山の方にご参加いただき、共に聖陵祭を盛り上げてもらいました。特別ゲストのしゅんしゅんクリニックPさんと相席スタートさんの2組は、生憎の天候で中ステージとなってしまいましたが、最高に楽しい時間を届けてくださいました。1日目と2日目で天候が変わり、開催場所の変更などで予定していた動き通りに出来ない場面もありましたが、それぞれが臨機応変に対応し、大盛況の中で聖陵祭を終えられたと思います。

今年度の聖陵祭は、自分にとって実行委員としては3年目、実行委員長としてははじめての聖陵祭でした。委員としての仕事はわかっている、委員長としての仕事は不慣れな部分ばかりで、先輩方、後輩たちに何度も助けていただきました。雨の影響で2日目のみ中開催となってしまった事が心残りですが、ご来場くださった皆さんや、参加してくれた有志団体の笑顔を見ることが出来て本当によかったです。

聖陵祭に協力していただいた有志団体や企業の皆様、実行委員会のみならず、そしてご来場いただいた皆様、本当にありがとうございました。今年度の反省点や改善点を精査し、来年度はさらに皆様にお楽しみいただけるような聖陵祭になるように委員一同頑張ります。

来年度も皆様のご来場をお待ちしております！



就職活動



文学部 英語文化学科 4年
櫻 庭 遥

挑戦の先にあった内定

私は昨年6月、国内航空会社より客室乗務職として内定をいただきました。私が本格的に就職活動を始めたのは、4年生への進級を目前に控えた3年生の冬でした。3年生の1年間はカナダに留学していたため、インターンシップや合同説明会には一度も参加できず、周囲の就職活動が進んでいる状況を聞いて焦りを感じていました。帰国までの間、時差17時間の環境で深夜にオンライン説明会や面接を受ける日々が続きました。

帰国後は、留学で不足した単位を補うための授業と就職活動の両立が大きな負担となり、精神的に苦しい時期もありました。選考が思うように進まず落ち込むこともありましたが、その中で挑戦した客室乗務職へのエントリーは、私にとって最も大きな挑戦でした。留学中、異なる背景を持つ人々と英語を通じて交流し、日本の魅力を再認識したことが、世界中の人々に日本のサービスを届けたいという思いにつながりました。

「当たって砕けろ」の気持ちで、ありのままの自分を大切にしながら選考に臨んだ結果、第一志望の企業から内定をいただくことができました。就職活動は自分自身との戦いです。周囲と比べて焦る必要はありません。自分のペースを大切にし、自分を信じて最後まで挑戦してほしいと思います。就活生の皆様の挑戦を、心より応援しています。



文学部 社会文化学科 4年
石 田 将 汰

ここから～私の教員採用試験～

「今の時代によく目指すね」一教員を目指していると、よく耳にする言葉。しかし、予測困難な時代だからこそ、教育という普遍的な価値に真剣に向き合う覚悟を私に与え、むしろ私をやる気にさせる言葉でした。

私は大学3年の後期から、教員採用試験に向けて本格的に対策を始めました。一人で行うとなかなか向き合えない勉強も、毎日学校に通い、校種や教科の違う仲間と励みました。あの時間があったからこそ、試験を孤独な戦いではなく、前向きに楽しめる挑戦として捉えることができました。また、教員養成サポートセンターの先生方には大変お世話になりました。試験に向けた案内、対策講座や個人面接の指導を何度もいただき、表面的な知識ではなく、教師としての本質的な考え方を深く身につけることができました。漠然とした「教員になろう」という思いが、明確な目標となり、そして教員採用試験合格という形に結実したのは、共に学んだ仲間と指導して頂いた盛岡大学の先生方の支えがあったからだと深く感謝しています。

合格を上白石先生に報告した際、「おめでとう。ここからだよ」と言葉をかけられ、合格はゴールではなく、新たなスタートラインに立ったのだと強く認識しました。盛岡大学でのこれまでの学びを礎に、生徒と向き合い、教員として成長し続け、支えてくださったすべての人への感謝を胸に、ここから始まる教員人生を全力で歩んで参ります。

2025 年度後援会入会式・総会開催報告

令和7年度 盛岡大学入学式挙行並びに大学後援会入会式開催

令和7年4月3日（木）14時から岩手産業文化センターツガワ未来館アピオにおいて、入学式が挙行されました。当日は天候にも恵まれ、新入生およびご家族の皆様が一同のもとに集いました。

今年度の入学者数は、文学部 324 名（英語文化学科 41 名、日本文学科 64 名、社会文化学科 111 名、児童教育学科 108 名）栄養科学部 栄養科学科 61 名、編入生 11 名（日本文学科 1 名、社会文化学科 1 名、児童教育学科 7 名、栄養科学科 2 名）です。盛岡大学での生活が有意義な盛り多い時間となるようお祈りいたします。

入学式終了後は、後援会入会式を入学生のご保護者対象に実施し、事務局より後援会の趣旨の説明を行いました。



令和7年度 盛岡大学後援会総会の開催

令和7年6月7日（土）13時30分から本学アクティブホールにて後援会総会を開催いたしました。当日は天候にも恵まれ、36名の方が参加してくださいました。

総会では、高橋基後援会長、高橋嘉行学校法人盛岡大学理事長、長谷川公一学長の挨拶のあと、令和6年度事業報告並びに決算報告、令和7年度事業計画、予算、役員改選等についての審議をし、すべて提案どおり承認されました。また同日午前中は、保護者と担任との面談等が行われ、保護者29名が参加しました。本学長谷川公一学長による会員研修会には46名が参加しました。



退職される先生がた

山形守平 教授
(文学部英語文化学科) 勤続8年

竹之下典祥 教授
(文学部児童教育学科) 勤続12年

長山弘 助教
(文学部児童教育学科) 勤続3年

木村京子 教授
(栄養科学部栄養科学科) 勤続10年

北田憲一 教授
(栄養科学部栄養科学科) 勤続2年

杉山功 准教授
(栄養科学部栄養科学科) 勤続3年8か月

令和7年度

盛岡大学卒業証書 学位記授与式

日時 令和8年3月17日（火）
午後1時から

場所 岩手産業文化センター
(ツガワ未来館アピオ)

卒業生	358名
❖文学部	320名
英語文化学科	50名
日本文学科	67名
社会文化学科	76名
児童教育学科	127名
❖栄養科学部	38名
栄養科学科	38名

卒業生の皆様のますますのご活躍をご祈念申し上げます。